

2022 J3 順位表 第33節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	いわき	75p	+49	71	22	H●	A●
2	藤枝	66p	+29	58	29	A●	H●
3	鹿児島	63p	+14	51	37	HO	A●
4	松本	63p	+12	45	33	H●	A●
5	今治	60p	+16	54	38	H●	A●
6	富山	60p	+9	53	44	AO	H●
7	長野	51p	+1	42	41	A△	H△
8	愛媛	49p	+7	48	41	HO	A△
9	宮崎	43p	-3	43	46	AO	H●
10	福島	42p	-5	37	42	AO	H△
11	八戸	40p	-15	30	45	H△	A●
12	鳥取	38p	-4	52	56	HO	A●
13	北九州	37p	-5	39	44	A●	
14	岐阜	37p	-9	42	51	---	---
15	沼津	31p	-18	26	44	A●	HO
16	讃岐	27p	-19	27	46	A●	HO
17	YS横浜	27p	-41	24	65	A△	HO
18	相模原	25p	-18	31	49	HO	A△

1年間のご愛読
ありがとうございました。

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつ一杯

煮込み
串かつ **珍道中**

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約10分

★

アミカ

ドミ
イン

JR

岐阜駅

today's guest : **ギラヴァンツ北九州**

2021 J2 7勝14分21敗 勝ち点35:21位

直近の対決と結果

2022/07/17
J3 - 17節@ミクスタ
北九州 2-1 岐阜
田中順也 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ギラヴァンツ北九州
2022/11/13 J3 - 33節@白波スタ 鹿児島 1-0 岐阜	2022/11/13 J3 - 33節@ミクスタ 北九州 1-2 富山
2022/11/06 J3 - 32節@長良川 岐阜 1-2 宮崎	2022/11/06 J3 - 32節@ミクスタ 北九州 3-1 相模原
2022/10/30 J3 - 31節@ギオンス 相模原 0-0 岐阜	2022/10/30 J3 - 31節@ピカスタ 讃岐 2-2 北九州

●シーズン終盤になっても、チーム状態が全く向上せず、もがき苦しみ続けるFC岐阜。
11/6 (日) 第32節・ホーム宮崎戦では、先制点を奪われたが、前半終了直前に#45 ンドカ・チャールスのゴールで同点にして折り返す。後半は一進一退の攻防が続いたが、終盤に速攻に対応できず失点、1-2で敗れた。続く11/13 (日) 第33節・アウェイ鹿児島戦は、昇格の望みをわずかに残す鹿児島の攻撃を受け止めつつ、ゴールを狙う展開。前半をスコアレスドローで折り返し、後半も我慢の展開で時間が過ぎたが、試合終盤に失点を許し、これが決勝点となって0-1で試合終了。岐阜は2連敗を喫してしまった。

この2試合の結果、FC岐阜の順位はさらに下がって14位に。直近5試合の戦績でも、1勝1分3敗・4得点6失点と、致命的な得点力不足がチーム不振の大きな要因だが、その解決の糸口は見つかっていない。全34節の2022シーズンJ3リーグも残り1試合。15位・沼津との勝点差は6あるため、今より順位が下がることはないが、11位より上に行くこともない。つまり、今季のFC岐阜は、中位~下位の成績で終わることが確定してしまった。この非常に残念な成績が原因だと思われるが、11/10 (木)には横山雄次監督が今シーズンで退任することが発表された。そして、過去の例を見ても、下位に低迷したチームは大幅に選手の入替えをする事が多い。ましてや来季の岐阜は、既に5人の新人選手を獲得しているのだから尚更だ。またしても、来季を全く新たな体制で4年目のJ3を戦うことになる。来季がどうなるか全く不明だが、このメンバーで戦うのは今日が最後ということだけは、間違いの無い事実だ。シーズン最終節ましてやホーム戦、しっかりと勝ちきって、2022年の“有終の美”を飾って欲しい。さて、今シーズン最後の対戦相手は、ギラヴァンツ北九州だ。2016年にJ3に降格して3年、2019年にJ3優勝、岐阜と入れ違いでJ2に昇格したが、今季から再びJ3に降格したチームだ。今季は、3年間指揮を執った小林伸二氏がスポーツダイレクターに専任し、その下で3年間ヘッドコーチを務めた天野賢一氏が新監督に就任。1年でのJ2復帰を目指したものの、成績は低迷し、直近5試合の戦績は1勝2分2敗・9得点9失点で、現在の順位は13位。来季のJ3残留が決定し、11/9 (水)には、こちらも天野監督の退任が発表されている。今節は、不本意なシーズンを過ごしたチーム同士による“6ポイントマッチ”だが、せめて少しでも上位の順位で終われるよう、岐阜の選手たちの奮起を期待したい。

北九州との通算対戦成績は、6勝1分8敗・16得点20失点。だが先述したように、2016年から5年間、両チームは同一カテゴリーに居ないため、あまり参考にはならないだろう。参考とすべきは前回の対戦の7/17 (日) 第17節・アウェイ戦だ。PKを与えて先制されたが、#15 田中順也のゴールで前半のうちに追いつく。後半には2本目のPKをGK #31 大野哲煥が止めて、流れが岐阜に傾いたかと思われたが、試合終盤にカウンターを浴びて失点し、2-1で敗戦。この最終節は、そのリベンジを果たすためにも勝利が必要だ。

北九州で最も警戒すべき選手には、現在8得点の#7 佐藤亮を挙げる。直近5試合で2得点、そして前回の対戦でも決勝点を奪われている。また、昨季は八戸で6得点を挙げて移籍してきた#15 上形洋介も、直近5試合で2得点と、ようやくチームに馴染んできた感がある。一方の岐阜では、やはり昨季まで3年間、北九州に在籍していた#6 岡村和哉らDF陣が活躍し、北九州を無得点に抑える試合を期待したい。また、岐阜の#17 藤谷匠と、北九州の#44 藤谷壮の、兄弟対決にも注目だ。

長かったはずの今シーズンも、いつの間にか終わりを迎える。少しの休憩を挟んで、また新しいシーズンがやってくる。今シーズンは悔しい試合結果ばかりが多かったが、最終節は笑って終りたいものだ。新型コロナ“第8波”も警戒される中、感染防止対策をとり、ガイドラインを守った上で、今節もまた、選手たちの背中を押し続ける拍手や、許される席では声援を、最後まで送り続けよう。そして、来季も再び、このホームスタジアム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場集って、僕らのクラブ・FC岐阜を支え続けよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第32節】岐阜 1-2 宮崎

●32歳の若さで急逝した、宮崎の#9工藤壮人選手。偉大なストライカーへの哀悼は尽きないけれど、そのチームに萎縮してしまうことは、少なくともリーグ戦の対戦相手としては、あってはならないことだ。……けど、萎縮してたのか、すぐ諦めてボールを下げますね、ウチの選手たち（溜息）。もちろん、無理に前にボールを出すばかりが能では無いと、僕でも知っているけど。それにしただって、ここは勝負！と思える場面でもあっさり下げるから、こちらのモチベーションも下がる訳で（苦笑）。あるいは、そういう勝負を掛けられる戦術が未だに徹底されていないから、なのか……。そして、先制点の場面の守備ときたら。あんな、寄せずに時間たっぷり与えてクロス上げさせたら、そりゃ中央にドンピシャのボールいくよな……。ただ、前半終了直前の得点シーン、あれは前目でボールが奪取できて、そこからショートカウンターに移行できた。あういうプレー（戦術）を、常にすれば良いのに。しないのか、できないのか……。

んで、いつものように試合終盤に、見慣れた失点シーンが。人数も岐阜の方が多かったのに、足が止まって対応できない選手が多くて。少し切り替えされると“立ってるだけ”で。ホント、イヤになるぐらい見てきた負け方だ。ホント、情けない話なんだけど、足腰よわすぎん？それとも、戦術が無いから、疲労が溜まりすぎて足が止まるのかしら？いずれにせよ、来季こそは90分走り続けられるチームにして欲しいものです。（ささたく）

●優勝や昇格の夢が消え失せても、シーズンの負け越しが決まっても、目の前の試合は勝ってほしい。それがホームなら、なおさらに。しかし、願いは届かず。ただ、空しさが募るばかり……。

試合を見て納得できたり、イイねえ〜と好感を持てるのは宮崎の方ばかり。いや、もう、ずーっと、そんな試合、相手のやってるコトには頷ける試合ばかりを見続けてきたような気がするよ。

ウチのサッカーはこういうサッカー。そういうのをキチンとピッチ上で表現してる姿は清々しいし、潔さを感じるよね。さらに言えば、抛り所、困った時に戻れる場所があるチームには、たとえ、結果が出なくても応援してる者の気持ちが澁むことはない……とは言い過ぎかな？澁むことは少ないだろう……にしておこうか。翻って、ボクが応援してるチームが形なし、アドリブのみ、としか思えないのは、ボク自身にサッカーを見る目がない故なのか。

『個人が出来る最高の準備』をして試合に臨み、予定通りに個人能力とラッキーで得点は決めた。せめて、結果が伴ってくれば、選手も見る方も救われるんだけどね。ツライよねえ。（ぐん）

●特に感想はない、といったところか。だいたい似たような強さの両チーム。岐阜が優れているのは個人の技術で、宮崎が優れているのはチームの技術。で、最後はいつものように守備が持ち堪えられずに失点して終了。試合後にGK桐畑が「これが実力」と言っていたけど、その通りだと思う。なんかもう、ホントに「特に感想はない」という感じの負け。慣れちゃったのかな。（吉田 Casting）

【第33節】鹿児島 1-0 岐阜

●J2昇格の可能性を、ほんの僅かに残す相手とのアウェイ対戦。このシーズン最終盤にきて、急に鹿児島さんが失速して昇格圏から落ちたのには驚いてたんだけど、主軸の#36米澤令衣が負傷したからなのね……選手1人が違うだけで、チームのバランスが崩れてしまうんだから、やっぱサッカーって怖いねえ……。

で、ウチの方はシーズン最終盤になっても、バランスの取れ

たチームになってませんね（溜息）。というか、#42 柏木陽介がバランスを取っていたのが、不在になって崩れたまま、という方が正解？（苦笑）前節の宮崎戦に比べれば、まだ前を向いてプレーしていたように思うけれど、それでもシュートを撃たなきゃ、如何ともしがたいものが。スタッツでシュート数6本は、明らかに少ない。後半にはCKで#17 藤谷匠のヘッドがゴールネットを揺らしたけれど、得点は認められず。たぶん、#38 藤岡浩介がボールへ関与したと判断されて、オフサイドなんですよ。まあJ3だし、判定やむなしなんだけど、これで#17匠の“幻のゴール”って、何回目かしら？そうこうしていると、いつものように試合終盤に岐阜の選手たちの足が止まって失点。岐阜の選手たちは何人も居たのに。いつもニアにばかり偏ってて、ファーで待つ相手をフリーにする悪い癖が、全く治ってませんよね……（溜息）。まあ、大恩ある薩摩の方々の、ホーム最終節を盛り上げるためには、これで良かったのかも、と……（自嘲）。（ささたく）

●結論から言うと、試合の結果に不満はない。もちろん、判定にも、ね（苦笑）有り体に言えば、今でも、何のファールかわかんない。CKを一発で決めたのにオフサイド……。ただ、単に、目の前で見てたハズの主審が気づかなかったコトをフォローしたのが副審だった……っていうだけのコト。匠のシュートがオフサイド・ポジションにいたウチの選手に当たってゴールした。そういう判断なんだからしかたない。

内容的にも、ウチのピンチの方が多かったし、バーにも助けられてたし、不満というより妥当と言ってもいいかもね。シュート数もさほど劣ってたわけじゃないが、GKを脅かすようなのはほとんどなかったから。もちろん、シュートをフカしたり、宇宙開発しようとしたりするつもりはないコトは承知の上なんだけど、ただ、ただ、もったいないなあ、と。それでも、前述したように、結果に不満はないし、内容的にも出来る限りのコトを精一杯やってくれたと思う。ゼイタクを言えば、鹿児島に引導を渡してほしかったが。一昨年のウチ以上に厳しい条件で臨まなければならない最終節。いっそ、ひと思いに楽にしてあげた方が……なんてね。それでも、希望がないよりはマシなのかもしれないな（苦笑）。ともあれ、いよいよ、今季のラスト。どんな試合を観せてくれるのかな？（ぐん）

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

◆ベストゲーム

第2節 ホーム 愛媛戦

やはり、ベストゲームは“ホーム戦から選びたい主義”を貫きたいのですが…ぜんぜん候補が見当たらない（苦笑）。なので、今季初勝利・初無失点の試合を。まだ、この頃には、僕にも夢がありました（苦笑）。（ささたく）

今季のベストを選ぶのは難しいな。あえて言うなら、この試合か。この時には、まだ、夢があった。希望があった。以降は、ただ、墜ちていくのみ。星が消滅する前の、最期の輝きのような試合だった……かもしれない。（ぐん）

第4節 ホーム 鳥取戦

「ヘニキを最終ラインに置くとボールに引っ張り出されて後ろが空く」という悪癖に対し、前半の途中で「だったら最初から真ん中にいろ」とポジションチェンジした横山・新監督。これは、もしかしたら彼の『修正力』で巻き返し出来るんじゃないかと、「希望拷問」の泥沼にハマリかけたよ。残念ながら、『修正力』が機能するのは「修正出来るレベル」の問題点だけ、と気づくのにそんなに時間はかからなかったけど。（吉田 Casting）

◆ベストゴール

No.30 宇賀神友弥 12節 (6/12) ホーム鹿兒島戦

右を駆け上がった窪ちゃんからの完璧なクロスは最前線の選手を飛ばしてファーへ、ワンタッチで合わせた。SBのゴールシーンとしてはほぼ完璧。(吉田铸造)

No.29 松本歩夢 30節 (10/23) ホーム沼津戦

大ケガからの復帰、ようやく、決めたプロ入り初ゴール。おめでとう。もっと、もっと、やっちゃってください。もしかしたら、今季最後の長良川での勝利を呼び込んだゴールになるかも。なって欲しくはないけどね。(ぐん、)

該当なし

どうにも、心に残るようなゴラツッが思い出せないんですよえ……特に、ズドンと決まったミドルとかFKとか、そういう力強いゴールが思い出せなくて、該当なしとしました。(ささたく)

◆MVP

No.8 窪田稜

ちょっとだけ悩んだけど、やっぱり、彼しかいない。とにかく、彼がボールを持つだけで、彼のサイドにボールが出るだけで胸が高鳴った。リズムを奏でるのも、流れを変えるのも、得点への期待が湧き上がるのもクボタンを経由した時だった……。買い取り、出来ないかな？。(ぐん、)

No.42 柏木陽介

今年も『彼』になってしまう。彼がピッチにいと「サッカー」というチーム競技になり、いないとチーム競技として成立しなくなる。そんな意味で、最も価値のある(Valuable)選手。(吉田铸造)

該当者なし

J3得点ランキング2位タイ(現在)の#38 藤岡浩介が順当な選出だと思うのですが、今季は散々な成績ですから、敢えて該当なし。強いて言えば、『俺たち、どんなに酷い試合でも、今季もがんばって応援したよね?』という理由で、FC岐阜サポーター全員に差し上げたいです(苦笑)。(ささたく)

今季の、そして 来季のFC岐阜へ。

●今季も、コロナ禍の中でのシーズンとなりました。まずは、試合開催に御尽力された関係者の皆さまに対して、心からの感謝と敬意を申し上げます。徐々に禁止事項も緩和され、今季途中からは“声出し応援適用試合”も始まりました。本当にありがとうございます。“第8波”が懸念されますが、来季に向けて、しっかりと準備をお願いします。

さて、今季もFC岐阜はJ2に昇格(正確には“復帰”なんですよけど)できませんでした。というか、もう4年目となれば、残念ながら『J2こそが帰る場所』なんていう使い古された言葉を、来季は使って欲しくないという気持ちが、僕にはあります。そういうクラブを、いくつか知っているのだから……。 (苦笑)。

さて、過去3年間のFC岐阜の戦績です。

2020年	34試合 16勝 8分 10敗・勝点 56 (勝率 0.47・1試合当たり勝ち点 1.65)
2021年	28試合 12勝 5分 11敗・勝点 41 (勝率 0.43・1試合当たり勝ち点 1.46)
2022年	33試合 10勝 7分 16敗・勝点 37 (勝率 0.30・1試合当たり勝ち点 1.12)

……みなさん分かっていると思いますが、改めて数字を見ると、ホントに酷いですね(溜息)。3年連続で戦績が下がりつづけて、

これでは4年目はどうなってしまうのか。現在のJFLの状況だと、奈良クラブとFC大阪のJ3参入が濃厚で、とすると来季のJ3は20チームで、現時点での“満席”に。下手をすると来季からは、再びJFLとの入れ替えが起きる可能性が充分にあります。そうであるならば、一応は今季の予算規模ではJ3上位にいるハズのFC岐阜ですから、まずは中長期的なクラブ戦略・チーム強化方針を立てて“J3規格”でのチーム作りをして、恒常的にJ3上位に居られるクラブであることを目指すことが必要なんじゃないでしょうか。その意味では、先日制定された“クラブフィロソフィー”とやらは、正解だと僕は思うのですが、公表されたのが大項目だけで、『うん、それはいいけど、その次は?』って感じなのが(苦笑)。

- (1) まずはチーム方針を
- (2) フィジカル強化を軽視しない
- (3) 若手選手の育成・強化にさらに注力を
- (4) チーム戦術を徹底する
- (5) ホーム戦を重視する

……実は、上記5項目は、昨季の『岐大通』最終号からコピペしたものです。変化なしです(苦笑)。特に、大幅なフィジカル強化は必須項目でしょう。“フィジカルモンスター”いわきFCは、1年でJ3を駆け抜けました。一方でベテラン選手を揃えたチームは、岐阜を含めて苦戦した様に感じます。『岐大通』誌友のみなさんは既にお分かりいただけていると思いますが、僕はフィジカルを軽視するサッカーが大嫌いです。まず、勝利への強い気持ち(心)があり、鍛えた強い身体(体)があって、その先に、磨いたパスワークや個人技(技)があるのだと、僕は思っています。

(ピッチの外の) 試合運営は今季も素晴らしかったです。自他共に認めるJ有数のスタグルをはじめ、J3で圧倒的な“地域のお祭り”感は、今季のチーム戦績を少しは忘れさせてくれました(苦笑)。来季こそは、もう少し、ピッチ内の成績で“お腹いっぱい”に、そして“美味しいお酒”を飲ませてください。まあ来季も、なんだかんだ文句や愚痴を言いながら、僕は『このクラブとチームを応援(サポート)する』んでしょけれど(苦笑)。サッカーが地域にある日常、スポーツで生活が豊かになる社会、つまり『Jリーグ百年構想』を、僕は来季も、一生懸命に謳歌してゆきたいと思います。

なお、今季もまた、『岐大通』をスタジアム内で配布させていただくという、異例の形式を採らせていただきました。クラブの格別のご配慮に、今季も心から感謝申し上げます。来季の配布体制はどうなるのかな?…というか、そろそろマジで後継者(お手伝いしてくれる人)が出てくれないと、僕らの制作体制は、チーム事情よりも大変にヤバいことになっております(苦笑)。記事投稿や、お手伝いしてくれる方は随時募集しております!(笑)

そして、なんと、J3リーグ2023シーズンのホーム開幕戦で発行される(予定の)『岐大通』は、通算300号となります!!【8倍角】こちらに関する投稿も、お待ちしております!それでは、来季も通算300号の『岐大通』で、お会いしましょう!(ささたく)

●Jリーグに上がった頃のFC岐阜は無いものだらけだったと思う。練習場が無いから練習場所を転々とし、運営資金が無く毎年赤字決算、知名度が無いから観客も少ない。試合も負ける事が多かったけど、選手が頑張ってるのはよく分かったので応援する気になれた。(頑張ってくれない時もたくさんあったけどね。苦笑)

今はどうです?優先使用できる練習場は有る、単年なら黒字も出せるようになった、観客もあの頃に比べればかなり増えた。でも本業の試合はつまらない。今季の途中からは応援したい、観に行きたいとはとても思えなかった。来年はもう少しマシンな試合をして下さい。本当にお祈りしますよ。(ヤックル)

●この原稿を書いている時点では未確定だが、たぶん、今季のボクの希望は叶うだろう。「今季も無事に終了しますように。」という希望はね。ただ、何を以て『無事』というのかは諸説ありそうな気がするが(苦笑)。

翻って、クラブの目標は今季も達成出来なかった。それも、過去最速での過去最低の順位確定というオマケ付き。開幕前に抱いていた「この監督でこの編成。大丈夫か?」という懸念は凶らず的中。こういうコトだけは当たるとは言えな。信じてもらえないかもしれないが、今季には期待していたんだよね。今までとは比較にならない程の時間があって、それを編成担当専門(と思ってた)の役職のヒトが取り組んで指揮官と選手を集めたワケだから。まさか、その役職のヒトが自ら現場監督になるとは思わなかった……。いや、多少の懸念はあったか。守備的なイメージの強い三浦サンだったし、当

時のコトをよく知ってる仲間からも裏打ちされた。でも、十年経ったし、海外での経験も積んだんだから……と。それでも、結局、この体たらく。しかも、J3を知る横山サンになっても状況は変わらず。いったい、誰が指揮を取ったら結果が出るのか。

でも、ソレは監督以前の問題じゃないのかな？ウチはどういうサッカーをやるのか。根底になるものが何もない。今季に限らず、試合を見てて、感じ入ったり、納得できたりしたのは対戦相手のサッカーだった。試合に臨む信念というか、スタイルというか。そういう拠り所、共通意識があるから、困った時でも支えになってくれる。その継続がシーズン終盤に向けて熟成されていく。最初から最後まで、変わらぬレベル。アドリブとラッキー以外のやり方が出来ないチームじゃ歯が立たなくなるのは明白だね。

ウチにはどんな根幹、信念があるんだろう？先日、クラブのフィロソフィーが発表された。内容的に目新しいモノはない（と思う）が、体系づけたのは悪くない。ただ、クラブの根幹となるべきモノが、サラッと公式にアップされる、事前の告知も匂わせもなく、だ。どう考えても、この発表のためだけに会見の場を設けて然るべき。少なくとも、開幕前の新加入選手披露の席やファン感でリリースするモノじゃないのかな？希望も目標も潰えた、ダウナーな気分の中で発表されて、誰が意気昂揚するというんだろう。フィロソフィーがクラブの根幹となるモノだとすれば、だ。ソレは今後のクラブとソコに寄り添う者達の進むべき道となり、あるいは、その道を照らす灯りとなるべきモノの筈。あんな発表の仕方でもいいのかな？ずいぶんと安っぽく感じるよ。

さらに言えば、このリリースのタイミング。サッカー好きなら誰もが気にする、W杯代表選手発表に被せたのかな？という時間帯。しかも、岐阜サポに取って空前のヒーロー、アイドルである彼が選ばれるか、どうか!?という大事な時に当ててくるのは、どうしても解せぬ。腑に落ちるハズがない。ケチつけついでに言わせてもらえば、目指すんならJ1じゃなくてACLぐらいにはしてくださいよ、と。ソレが『下剋上』にして『天下布武』の地に本拠を構えるクラブの矜持というモノでしょう？違いますか？

銀河系という言葉が驚異ではなく揶揄になってしまった今季。ソレもある意味当然。今、我々に見ている輝きは何光年、何十光年も前のもの。実のところ、今は形骸も残ってないかもしれない。今季の彼は昨季までの彼とは違っても仕方がない。銀河系とは言い得て妙なかもしれないね。今のウチには高みを目指す気持ちより足元を固める意志の方が必要なんだろう。どっしりと大地に根を下ろす。そのために自分は何ができるか。願わくば、根差すべき大地の肥やしになりたい。稲穂を実らせるために、レンゲ草がいるように。(ギッフィーになりたいワケじゃないけど)

天に星、地に花、人に愛。フィロソフィーとは哲学の意だけけど、元は『愛』を意味するとも聞いた。愛は大事に育まなきゃね。でないと、いとも儂く、容易く消えてしまうから。来季はボクのフィロソフィーが、さらに試される年になりそうだ。楽しみだね。(ぐん)

●今日のこの試合(岐阜 vs 北九州)の前半終了のところ、JFL最終節の試合が終わる。既に奈良クラブのJ3昇格は確定し、FC大阪も成績面での条件はクリアしていて、あとは入場者数のハードルのみ。この最終戦で3,723人以上の観客を入れれば勝敗に関係なくJ3昇格が確定する。試合会場を服部緑地(豊中市)から地元・東大阪市の花園センターコート(ラグビーW杯の会場です)に移しての開催ですから、天気予報は微妙だけど、まあ入らないことはないでしょう。

なんでJFLの話から始めたか。それは、この2チームのJ3昇格でJ1、J2、J3の加入チーム数がJリーグ機構(だっけ?)が定めた上限60に到達するから。つまり、来季(2023年)からはJ3=JFLの入替制度が始まるということ。「J3からの降格なんて岐阜は関係ない」って言えますか？後半戦、これま

で3勝4分9敗の岐阜(後半戦だけだと22チーム19位)が、それを堂々と言えますか？ちなみにぼくは言えません。個人的な話だけど、ぼくは昨季(2021年)の岐阜の戦いぶりを『希望拷問』という表現で喻えた。韓国で使われる表現で、日本語に直せば「思わせぶり」。昇格するんじゃないか、出来るんじゃないかと思わせておいて、もうつけず。でも、今季は違いました。

三浦・前監督の「様式美に支配された」、相手からすると対応しやすいサッカー。横山監督の、就任序盤は『修正力』で切り抜けたけれど、ホームで松本に負けたあたりから「もう手に負えません」と『修正』作業を投げだしたようなサッカー。さすがに、昇格の希望なんて持てません。シーズン後半は、目の前のピッチにトキメキなんてどこにもなく、ただ「長良川にいる」ことを目的に長良川にいた。そんな感じでした。監督の契約満了も珍しくシーズン中に発表になって。これ、横山監督の今後(次の仕事先探し)を考えての温情だったりするのかも。

昨季のホーム最終戦を終えて、小松GM(当時)が「岐阜のフィロソフィーを作る」と宣言した、そのフィロソフィーとは、いったい？という疑問に対する答は、シーズン終盤にカタルW杯の代表メンバー発表という大イベントの影にこそそそ隠れるように明らかに。この文言をまとめるために11ヶ月とかを費やしたのなら、小松社長のチームはまあずいぶんと長閑なことだ。

フィロソフィーに登場した気になるチームは『オール岐阜』。ああ、なるほどねえ……もちろん、ネガティブに受け止めます。今年4月の増資と減資で昨年度の単年度赤字を乗り切ったものの、その(まさに)自転車操業をいつまで続けるのか。「名鉄FC岐阜駅」のセレモニーで小松社長は「さらなる地域密着を議論している」と話していた。使い古された『オール岐阜』に別の意味があるような気がしてならない。来季は、「小さなクラブ運営」「小さなチーム運営」を志向するんじゃないだろうか。

もちろん、それはそれで構わない。J3って、「J3にいる」だけならそんなに多大な費用はかからない。JFLにいたことが悪いつてわけじゃないけど、ぼくらは、FC岐阜はJリーグに残ることを優先しなくちゃならない。だから、それを第1優先に、次の目標、いや、夢が『J2昇格』。『復帰』じゃないよ『昇格』だよ。もう『J2復帰』なんて表現は使っちゃいけない。その言葉は賞味期限切れだ。(編集人：吉田鑄造)

おことわり：

この『岐大通』北九州戦号は11/16午前5時の締切で作成しています。従って、その後にクラブから発表になった契約満了選手の情報 は反映されていません。